

小中学生の介護への意識変容を図るための 視聴覚教材の効果について

藤 井 園美子・薦 田 美貴世・植 谷 澄 子・黒 木 ひとみ

はじめに

2018(平成30)年5月21日、厚生労働省より、第7期介護保険事業計画の介護サービス見込み量等に基づく介護人材の必要数が公表された。介護人材の需要は、2020年度末には約216万人、2025年度末には約245万人が必要とされ、2016年度の約190万人に加え、2020年度末までに約26万人、2025年度末までに約55万人、年間6万人程度の介護人材を確保する必要があると発表されている。

国において総合的な介護人材確保対策として①介護職員の処遇改善、②多様な人材の確保・育成、③離職防止・定着促進・生産性向上、④介護職の魅力向上、⑤外国人材の受け入れ環境整備など総合的な介護人材確保対策に取り組むとされている¹⁾。

平成30年度児童生徒等に対する介護の魅力発信事業「介護に関する授業」が小中学生及び高校生等を対象に行う予定である。本事業は、新人介護福祉士を主人公とした映画「ケアニン～あなたでよかった～」の上映と介護に関する授業で県内8か所を予定している。そのうち3か所の事業が本学に委託された。

本調査は、委託事業のうち小学校1か所、中学校1か所合わせて2か所で行われた「介護に関する授業」を対象に、効果的に介護の仕事が伝えられたか、介護への関心が高まったか、さらに介護の仕事に対する理解が深まりイメージが向上したか、そし

て、今後の課題を明確にすることを目的とする。

I. 平成30年度児童生徒等に対する介護の魅力発信事業「介護に関する授業」について

1. 事業の目的

小学校高学年及び中学生を対象として、新人介護福祉士を主人公とした映画「ケアニン～あなたでよかった～」の上映会と高齢者疑似体験等を開催することにより、お年寄りと関わる介護の仕事への関心を高め、介護の仕事のイメージ向上を図ることを目的とする²⁾。

2. 映画「ケアニン～あなたでよかった～」について

映画「ケアニン～あなたでよかった～」(以下、映画「ケアニン」と示す)は、神奈川県藤沢市に実在する「おたがいさん(株式会社あおいけあ)」をはじめとする30ヵ所もの介護福祉施設や専門学校、関連団体への取材を基に、介護という仕事を通して働くことの意味や、人と人、地域とのつながり、いのちの尊さについて、実際の現場からの生きたことばの数々で描かれている。

主人公の大森圭(男性21歳)は、新人の介護福祉士である。高校卒業後、これといってやりたいことがなかった圭は、漠然とした理由で介護の専門学校へ入学した。卒業後、圭が働くことになったのは、郊外の小規模施設であった。高齢者たちと上手くコミュニケーションが取れず、悩む日々が続く中、圭が初めてメインで担当したのは、認知症の星川敬子(女性79歳)だった。試行錯誤しながらも先輩スタッフたちの協力もあり、少しずつ敬子との関係性

平成31年1月7日受理
連絡先 〒769-0201 香川県綾歌郡宇多津町浜一番丁10番地
香川短期大学 生活文化学科
TEL 0877(49)8035 FAX 0877(49)5252
Email fujii@kjc.ac.jp

を深めていく。「なんとなく」で始めた介護の仕事に、いつしか本気で向き合うようになっていく。また、この映画において「ケアニン」とは、介護、看護、医療、リハビリなど、人の「ケア」に関わり、自らの仕事に誇りと愛情、情熱を持って働いている全ての人である³⁾。

3. 県より委託された業務内容

(1) 小学生対象

日時：平成30年10月23日（火）9:00～12:00

内容

ア. 映画「ケアニン」上映

視聴後の感想などをもとに、児童との意見交換

イ. 介護の仕事の紹介と介護職員の話

ウ. 映画「ケアニン」を通して学んだ内容のまとめ

(2) 中学生対象

日時：平成30年10月16日（火）8:45～11:35

内容

ア. 映画「ケアニン」上映

視聴後の感想などをもとに、生徒との意見交換

イ. 高齢者疑似体験

ウ. 映画「ケアニン」を通して学んだ内容のまとめ

3名、本学教員2名と先輩介護職員（本学卒業生）1名

内 容：①映画「ケアニン」上映（途中で10分間の休憩）

②視聴後の感想などをもとに、児童との意見交換

③介護の仕事の紹介と介護職員の話

④映画「ケアニン」を通して学んだ内容のまとめ

⑤アンケート記入

(2) 中学生対象

実施場所：B中学校

参加者：中学校2年生40名（1クラス）、教諭1名、本学教員2名

内 容：①映画「ケアニン」上映（途中で10分間の休憩）

②視聴後の感想

③介護体験：

立ち上がり動作からの立位介助
仰臥位から側臥位への体位変換
視覚障害の体験

④介護体験の感想をもとに、生徒との意見交換

⑤アンケート記入

II. 研究方法

1. 本研究の目的

小中学生を対象に、「介護に関する授業」として映画「ケアニン」の上映と介護体験や介護の仕事の紹介、介護職員との意見交換を行い、効果的に介護の仕事が伝えられ介護への関心が高まり、介護の仕事に対する理解が深まりイメージ向上につながったかを検討し、今後の課題を明確にすることを目的とする。

2. 「介護に関する授業」の実施内容

(1) 小学生対象

実施場所：A小学校

参加者：小学校6年生68名（2クラス）、教諭

3. 調査の方法

(1) 調査対象：A小学校6年生（2クラス）、B中学校2年生（1クラス）

(2) 調査期間：2018年10月15日～10月23日

(3) 調査内容及び項目：無記名自記式を活用し集合調査とし、映画「ケアニン」の視聴前後に実施した。アンケート用紙の配布回収は、各担当教諭に依頼した。

質問項目1は視聴前後に、介護の仕事のイメージについて、28項目あてはまるものをすべて選び、その他1項目を自由記述とした。

質問項目2は視聴前後に、介護の仕事において①介護の仕事について知っているか、②介護の仕事についてもっと知りたいか、③介護の仕事をしてみたいかについてそれぞれ4段階評価とした。

質問項目3は実施前に基本属性を、質問項目4は実施後に「介護に関する授業」の感想を求め自由

記述とした。

3. 分析方法

A小学校6年生68名、B中学校2年生40名に無記名アンケートを実施し回収率：100%、有効回答数108件のデータを用いた。データの解析にはExcelを用いて、単純集計した。質問項目2、質問項目3とも映画上映前後の比較、基本属性との関連性をみた。質問項目4の自由記述は記述内容をKJ法の手法で整理し、カテゴリー集計した。

4. 倫理的配慮

小学生及び中学生並びに各学校の教員に研究目的を明示し、調査の趣旨について協力者の理解を十分得ること、個人が特定されないようにすること、データの厳重な保管、調査により得られた結果は研究目的以外には使用しないこと、回答の協力は任意であることを明示し、質問紙の回答をもって同意を得たものとみなした。

Ⅲ. 結果

1. 基本属性

小学生及び中学生の性別、介護の経験、一緒に住んでいる人について表1に示した。

表1 基本属性 (単位：人)

		小学生		中学生	
		回答数	%	回答数	%
性別	男性	35	51.5	20	50.0
	女性	31	45.6	20	50.0
	無回答	2	2.9	0	0.0
介護の経験	ボランティア	6	8.8	2	5.0
	職場体験	3	4.4	0	0.0
	学校の授業	16	23.5	2	5.0
	その他	2	2.9	3	7.5
一緒に住んでいる人	※1 介護が必要	9	13.2	6	15.0
	※2 介護を職業	2	2.9	4	10.0

※1 介護が必要：介護が必要な人がいる
※2 介護を職業：介護を職業にしている人がいる

介護の経験がある者については、小学生は、ボランティア1名、職場体験2名、学校の授業13名、ボランティアと職場体験1名、ボランティアと学校の授業2名、ボランティアとその他1名、ボランティアと学校の授業とその他1名の21名(30.9%)、中学生は、学校の授業1名、ボランティアと学校の授業1名、ボランティアとその他1名、その他3名の6名(15.0%)であった。

一緒に住んでいる人について、介護が必要な人がいるあるいは介護を職業にしている人がいる者の人数は、小学生は11名(16.1%)、中学生は10名(25.0%)であった。

2. 介護の仕事のイメージについて

介護の仕事のイメージについて表2にまとめた。
28項目を『プラスイメージ』14項目、『マイナスイメージ』6項目、『仕事の内容』8項目とその他1項目に分類し、その他は自由記述とした。

表2 介護の仕事のイメージ

プラスイメージ (14項目)	責任がある 人の役にたつ 笑顔がみられる 楽しい かっこいい 親切 魅力がある	感動がある 人とのふれあい 温かみがある 助ける 感謝される 優しい やりがいがある
マイナスイメージ (6項目)	きたない 人が足りない きびしい	きつい ストレスが多い 給料が安い
仕事の内容 (8項目)	家事と同じ 女性の仕事 地域とのかかわり 生活のお世話	健康にする 看取り 休みが多い 支え合い

(1) A小学校

実施前後の結果は『プラスイメージ』を図1、『マイナスイメージ』を図2、『仕事の内容』を図3に示した。

実施前の各項目の上位3位は、『プラスイメージ』では、「人とのふれあい」64.7%、「責任がある」63.2%、「人の役にたつ」57.4%の順で、4位は「助ける」54.4%であった。他の項目については48.5%から1.5%であった。『マイナスイメージ』では、「きつい」50.0%、「ストレスが多い」45.6%、「人が足

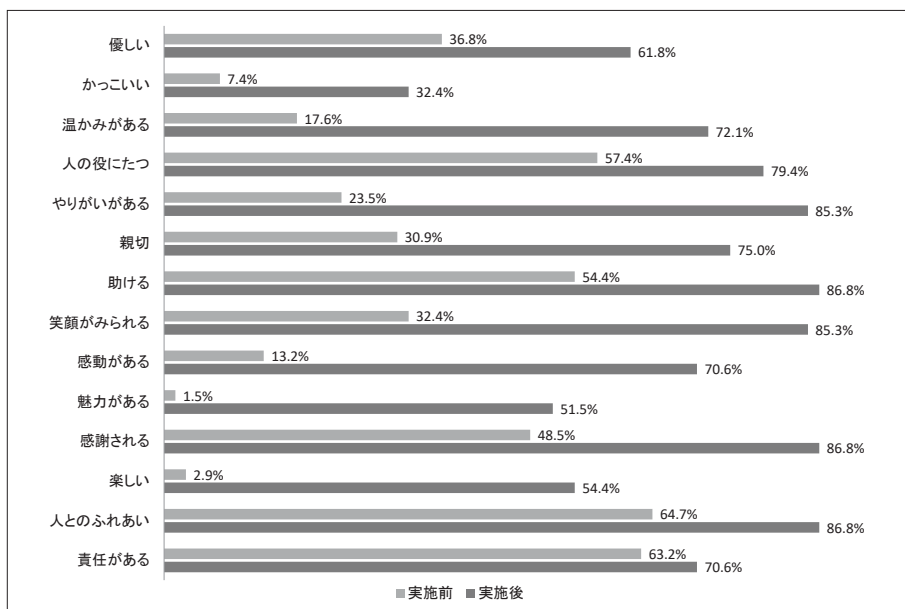


図1 介護の仕事のプラスイメージ（小学校）

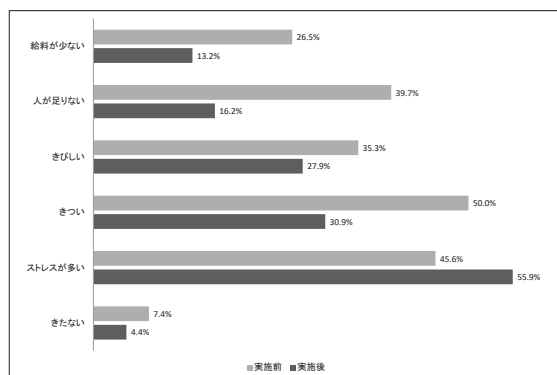


図2 介護の仕事のマイナスイメージ（小学校）

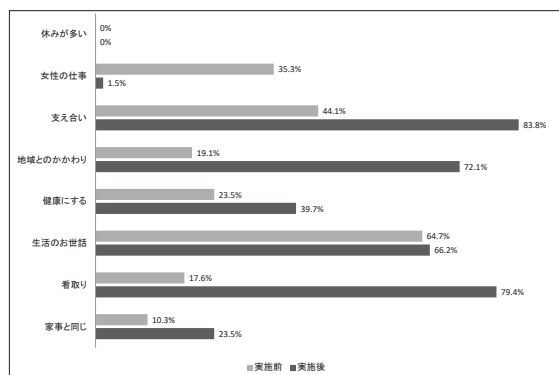


図3 介護の仕事の内容のイメージ（小学校）

りない」39.7%の順で、4位は「きびしい」35.3%であった。他の項目については、30.0%未満であった。『仕事の内容』では、「生活のお世話」64.7%、「支えあい」44.1%、「女性の仕事」35.3%で、他の項目については、25.0%未満であった。

実施後の各項目の上位3位は、『プラスイメージ』では、「人とのふれあい」、「感謝される」「助ける」ともに86.8%となっており、4位は「笑顔がみられる」「やりがいがある」ともに85.3%であった。他の項目については、「カッコいい」32.4%を除いては、50.0%以上あった。『マイナスイメージ』では、

「ストレスが多い」55.9%と実施前より増加したものの、「きつい」30.9%、「きびしい」27.9%と減少しており、他の項目についても、20.0%未満と実施前より減少した。『仕事の内容』では、「支え合い」83.8%、「看取り」79.4%、「地域との関わり」72.1%の順で、4位は「生活のお世話」66.2%であり、他の項目については40.0%未満であった。

実施前後の比較において『プラスイメージ』で増加した項目上位3位は、「やりがいがある」23.5%から85.3%となり61.8%増加、「感動がある」13.2%から70.6%となり57.4%増加、「温かみがある」

17.6%から72.1%となり54.5%増加した。他の項目もすべてにおいて増加した。「責任がある」63.2%から70.6%となり7.4%と増加は最も少なかった。実施後に50%に満たなかった「カッコいい」は7.4%から32.4%となり25.0%の増加であった。

実施前後の比較において『マイナスイメージ』で、減少した項目上位3位は、「人が足りない」39.7%から16.2%となり23.5%減少、「きつい」50.0%から30.9%となり19.1%減少、「給料が少ない」26.5%から13.2%となり13.3%減少した。ただし、「ストレスが多い」は、45.6%から55.9%となり、10.3%増加したものの、それ以外の2項目はすべて減少した。

実施前後の比較において『仕事の内容』で増加した項目上位3位は、「看取り」17.6%から79.4%となり61.8%増加、「支え合い」44.1%から83.8%となり39.7%増加、「地域とのかかわり」19.1%から72.1%となり53.0%増加した。逆に減少した項目は、「女性の仕事」35.3%から1.5%となり33.8%減少、「休みが多い」は、実施前後とも選択しておらず、それ以外の3項目については増加した。

介護の仕事のイメージについて2名は、実施前は「分からない」と答えていたが、実施後に、1名は、21項目（『プラスイメージ』13項目、『マイナスイメージ』『ストレスが多い』『きびしい』の2項目、『仕事の内容』6項目）選んでおり、自由記述には「人と人が親切にふれあって楽しい仕事」「最初はストレスなどがあって、みているがわもストレスがたまるけど、介護の仕事のよさがすごく伝わってくる映画だと思った。」と記述されていた。もう1名は、9項目（『プラスイメージ』7項目、『マイナスイメージ』0項目、『仕事の内容』2項目）選んでおり、自由記述には「みとりとはどんなに悲しいかが分かった。ケアニンはやりがいがある」と記述されていた。

映画「ケアニン」のストーリーに給料に関しては触れられていないにもかかわらず、「給料が少ない」と答えた小学生は実施前18名（26.5%）おり、このうち一緒に住んでいる人で介護が必要な人がいる4名、介護を職業にしている人がいる1名であった。実施後9名（13.2%）と半減したが、1名は実施後に新たに選択した。この9名の中に介護が必要な人2名、介護を職業にしている人がいる1名であっ

た。

（2）B中学校

実施前後の結果は『プラスイメージ』を図4、『マイナスイメージ』を図5、『仕事の内容』を図6に示した。

実施前の各項目の上位3位は、『プラスイメージ』では、「責任がある」62.5%、「人の役に立つ」62.5%、「助ける」60.0%の順で、他の項目については45.5%から2.5%と差はあるもののプラスイメージにとらえている生徒は少なかった。『マイナスイメージ』では、「ストレスが多い」、「きつい」とともに55.0%、「人が足りない」45.0%であった。他の項目についても、12.5%から27.5%と1割以上の生徒がマイナスイメージを持っていた。『仕事の内容』では、「支え合い」47.5%、「生活のお世話」40.0%、「看取り」と「女性の仕事」が17.5%であった。

実施後の各項目の上位3位は、『プラスイメージ』では、「人とのふれあい」90.0%、「責任がある」87.5%、「感謝される」82.5%の順であった。『マイナスイメージ』では、「ストレスが多い」40.0%、「きつい」32.5%、「人が足りない」27.5%で実施前と項目の順位に変更はないが、『マイナスイメージ』にとらえた生徒の割合は減少した。『仕事の内容』では、「支え合い」77.5%、「看取り」70.0%、「生活のお世話」65.0%の順で、4位は「地域とのかかわり」57.5%であった。

実施前後の比較において『プラスイメージ』で増加した項目上位3位は、「笑顔が見られる」27.5%から80.0%となり52.5%と大きく増加がみられ、「感動がある」20.0%から67.5%に増加、「やりがいがある」30.0%から77.5%となりともに47.5%に増加、「親切」27.5%から70.0%と42.5%増加した。また、他の全ての項目においても増加がみられた。

実施前後の比較において『マイナスイメージ』で、減少した項目上位3位は、「きつい」55.0%から32.5%となり22.5%減少し、「人が足りない」45.0%から27.5%となり17.5%減少、「ストレスが多い」55.0%から40.0%となり15.0%の減少がみられ、他の全ての項目においても『マイナスイメージ』は減少した。

『仕事の内容』で増加した上位3位は、「看取り」17.5%から70.0%となり52.5%増加、「地域とのかか

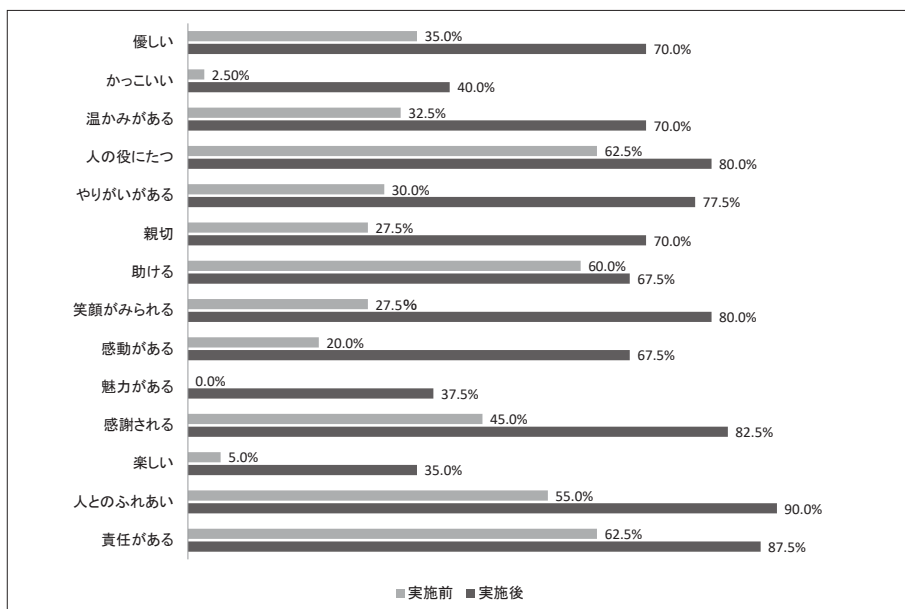


図4 介護の仕事のプラスイメージ（中学校）

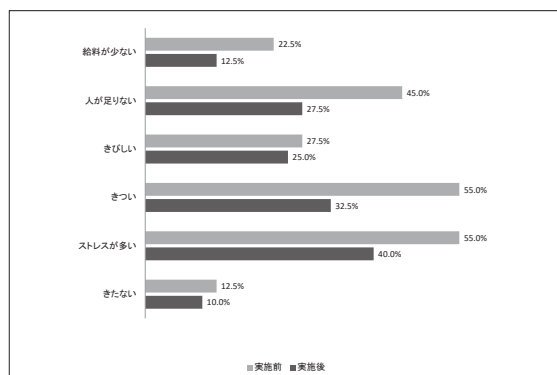


図5 介護の仕事のマイナスイメージ（中学校）

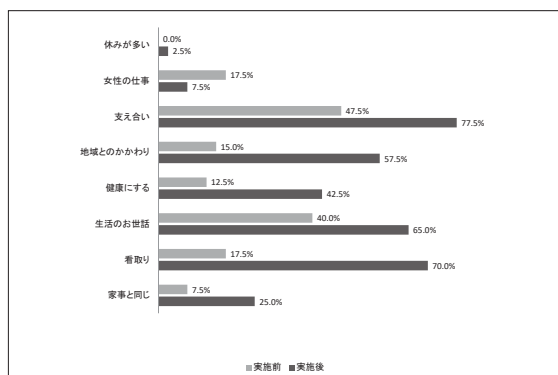


図6 介護の仕事の内容のイメージ（中学校）

わり」15.0%から57.5%となり42.5%増加、「支え合い」47.5%から77.5%、「健康にする」12.5%から42.5%となりともに30.0%増加した。逆に減少したイメージは、「女性の仕事」17.5%から7.5%となり、10.0%減少した。それ以外の3項目については増加した。

介護の仕事のイメージについて、実施前に2名は28項目を全く選択しておらず、その他の欄に、1名は「大変」「こしがいたくなる」「いそがしい」とあり、もう1名は、「疲れる」「大変」「老人」とあり、この生徒は介護を必要としている人と一緒に住んで

いた。

実施後は、1名は、20項目選択しており、その内容は『プラスイメージ』10項目、『マイナスイメージ』「ストレスが多い」「きつい」「きびしい」「人が足りない」「給料が少ない」の5項目、『仕事の内容』5項目であった。自由記述には「介護の仕事はやっぱり大変だなと思った。私はおばあちゃんが介護の仕事をしていたので、とても忙しい仕事だとは知ってはいたが、こんなに大変だけといい仕事だとは思っていなかったの、私は自分のおばあちゃんがほころくなりました。」とあった。もう1名は、

6項目選択しており、『プラスイメージ』4項目、『マイナスイメージ』『人が足りない』の1項目、『仕事の内容』1項目であった。自由記述には「人の命がなくなるというのは、つらいことではあるがそれを悲しむのが介護士ではなく、最後まで優しく幸せでいてもらうことが、大切だと感じた。私のひいおばあちゃんも数年前から認知症で最初はととてもとまどったけど、サポートをしていくことこそが私たちの役目だと知った。介護=しんどいというイメージだったが今回の映画を見て介護=やりがいというイメージに変わった。」とあった。

また、上記2名を除いた29名においても28項目の中から選択した項目以外にその他の欄に記述していた内容としては、「老人」17名、「障害者」7名、「大変」4名、「しんどい」3名、「つかれそう」3名、「忙しい」3名、「めんどくさい」3名、「けがした人」3名等の『マイナスイメージ』が多く42項目あった。

実施後において9名は「悲しい」「家族みたい」「少しつらい」など上映内容に関する事柄や、「成長できる」「得られるものが大きい」「自分と向き合える」「老人や障害者と一緒に生活」「命を預かっている」「誰にでもできない」など14項目があった。自己の成長に関することや専門性について等『プラスイメージ』の記述もあった。

映画「ケアニン」のストーリーには給料に関しては触れられていないにもかかわらず、「給料が少ない」と答えたのは実施前9名おり、このうち介護を必要としている人と一緒に住んでいるのは2名、介護を職業にしている人がいるのは1名であった。実施後は5名に減少したが、2名は実施後に新たに選択していた。この5名の中に介護を必要としている人と一緒に住んでいるのは1名、介護を職業にしている人がいるのは1名であった。

3. 介護の仕事について

3つの質問項目について「とてもそう思う」「思う」「思わない」「全く思わない」の4段階評価を行った。

(1) A小学校

①介護の仕事について、介護の仕事を知っているかと思いかの結果は図7の通りである。

実施前「とてもそう思う」0.0%、「思う」35.2%、

実施後「とてもそう思う」33.8%、「思う」61.8%であわせて95.5%となり、60.3%増加した。逆に実施前「思わない」51.5%、「全くそう思わない」11.8%であわせて63.3%、実施後「思わない」4.4%、「全くそう思わない」0.0%であわせて4.4%となり、58.9%減少した。

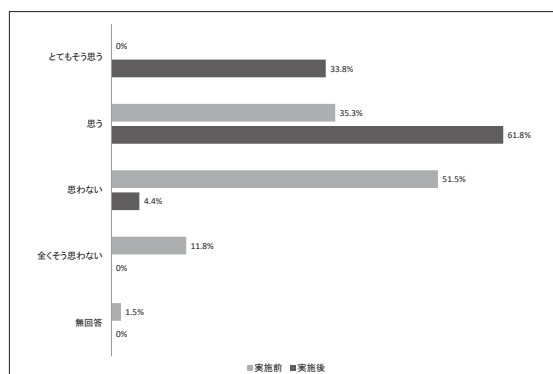


図7 介護の仕事について知っているか (小学校)

②介護の仕事についてもっと知りたいと思いかの結果は図8の通りである。

実施前「とてもそう思う」「思う」をあわせて64.6%、実施後は91.1%となり、26.5%増加した。逆に実施前「思わない」「全くそう思わない」をあわせて33.8%、実施後は8.8%となり、25.0%減少した。

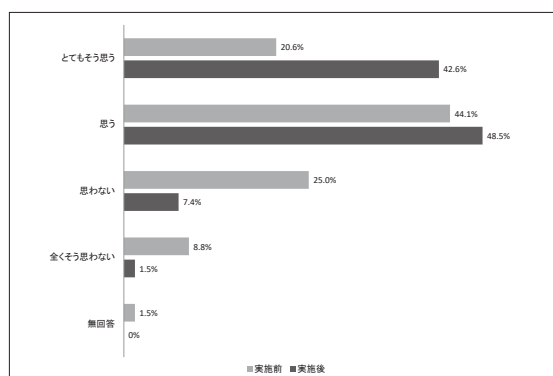


図8 介護の仕事についてもっと知りたいか (小学校)

③介護の仕事をしてみたいと思いかの結果は図9の通りである。

実施前「とてもそう思う」「思う」をあわせて

16.1%，実施後は64.6%となり，48.5%増加した。逆に実施前「思わない」「全くそう思わない」をあわせて82.2%であったが，実施後は38.2%で，44.0%減少した。

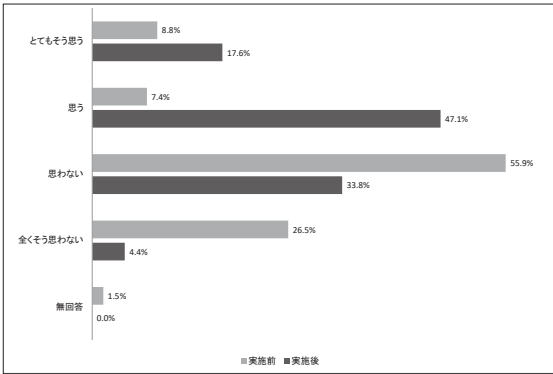


図9 介護の仕事をしてみたいか（小学校）

図7～図9の結果から実施前は介護の仕事を知っているかの質問で「とてもそう思う」と答えた児童は0人だったが，実施後は「全くそう思わない」が0人となり，95.5%の児童が介護の仕事を知っていると答えており，91.1%の児童が介護の仕事をもっと知りたいと答えている。介護の仕事をしてみたいと思った児童は64.6%と他の質問に比べて低い値ではあるが，「思わない」「全くそう思わない」とともに映画の視聴を通して22.1%減少した。

表3は，①②③の各項目（1：全くそう思わない，2：思わない，3：思う，4：とてもそう思う）の実施前後について実施前に無回答であった1名を除く67名を調べた。

①の質問項目において8割の者が，②と③の項目

表3 各項目の実施前後の比較（小学生）

（単位：人）

質問項目	増加		変化なし		減少	
	合計	%	合計	%	合計	%
①介護の仕事について知っている	54	80.6	13	19.4	0	0.0
②介護の仕事についてもっと知りたい	33	49.3	30	44.8	4	6.0
③介護の仕事をしてみたい	40	59.7	26	38.8	1	1.5

においては約半数の者が実施後に増加していた。

②の質問項目において減少した4名は，「とてもそう思う」から「思う」へ1ポイント減少が3名，「思う」から「思わない」へ1ポイント減少が1名であった。

③の質問項目において減少した1名は，「とてもそう思う」から「思う」へ1ポイント減少した。

（2）B中学校

①介護の仕事について，介護の仕事を知っていると思いますかの結果は図10の通りである。

実施前「とてもそう思う」「思う」をあわせて27.5%，実施後は67.5%となり40.0%と増加した。逆に実施前「思わない」「全くそう思わない」をあわせて70.0%，実施後は32.5%となり37.5%減少した。

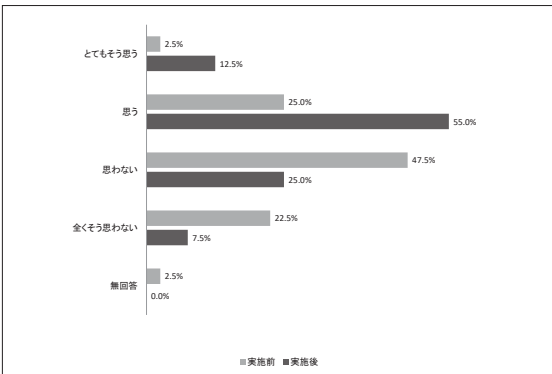


図10 介護の仕事について知っているか（中学校）

②介護の仕事についてもっと知りたいと思いますかの結果は図11の通りである。

実施前「とてもそう思う」「思う」をあわせて

表4 各項目の実施前後の比較（中学生）

（単位：人）

質問項目	増加		変化なし		減少	
	合計	%	合計	%	合計	%
①介護の仕事について知っている	21	53.8	16	41.0	2	5.1
②介護の仕事についてもっと知りたい	19	48.7	14	35.9	6	15.4
③介護の仕事をしてみたい	20	51.3	18	46.2	1	2.6

62.5%，実施後は80.0%となり17.5%増加した。逆に実施前「思わない」「全くそう思わない」をあわせて35.0%，実施後は20.0%となり15.0%減少した。

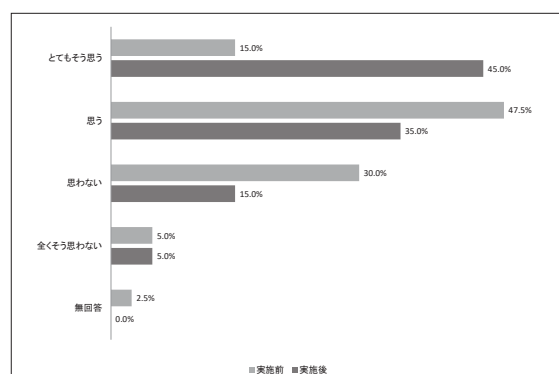


図11 介護の仕事についてもっと知りたいか (中学校)

③介護の仕事をしてみたいと思いますかの結果は図12の通りである。

実施前では「とてもそう思う」「思う」をあわせて20.0%，実施後は50.0%となり30.0%増加した。逆に実施前「思わない」「全くそう思わない」をあわせて77.5%，実施後は50.0%となり27.5%減少した。

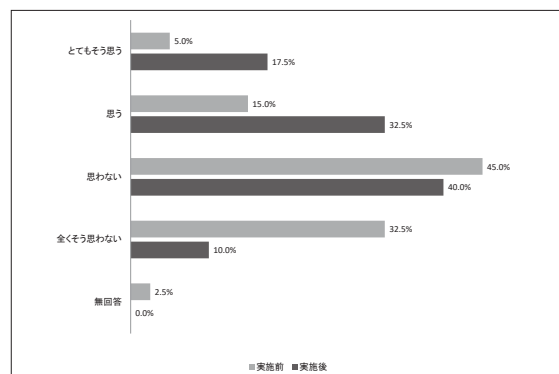


図12 介護の仕事をしてみたいか (中学校)

図10～図12の結果から約7割の生徒が介護の仕事を知っていると答えており、さらに約8割の生徒が介護の仕事をもっと知りたいと答えている。介護の仕事をしてみたいと思った生徒は5割と他の質問に比べて低い値ではあるが、「全くそう思わない」という生徒の割合が映画の視聴を通して約2割減少し

た。

表4は、①②③の各項目（1：全くそう思わない，2：思わない，3：思う，4：とてもそう思う）の実施前後について実施前に無回答であった1名を除く39名を調べた。

それぞれの項目において約半数の者は、実施後に増加した。

①の質問項目において減少した2名は、「思う」から「思わない」へ1ポイント減少が1名、「思わない」から「全くそう思わない」へ1ポイント減少が1名であった。2名とも介護の仕事へのイメージは0個から20個，6個から16個と大幅に選択項目が増加している。

②の質問項目において減少した6名は、「とてもそう思う」から「思う」へ1ポイント減少が2名，「思う」から「思わない」へ1ポイント減少が3名，「思わない」から「全くそう思わない」へ1ポイント減少が1名であった。

③の質問項目において減少した1名は、「思う」から「思わない」へ1ポイント減少した。

4. 「介護に関する授業」の感想について

自由記述について、アンケート調査の分析によりカテゴリー化した。表記は《 》でくられたものをカテゴリー，【 】でくられたものをサブカテゴリー，[]でくられたものをコードとした。

カテゴリーは介護の仕事のイメージの分類をもとに，《仕事》と《イメージ》の2つに分けた。《仕事》のサブカテゴリーは，【内容】，【対象者】，【介護者】，【施設】，【専門性】，【将来の仕事】，【技術】の7つに分けた。《イメージ》のサブカテゴリーは，【プラスイメージ】，【マイナスイメージ】の2つに分けた。

(1) A小学校

《仕事》において【内容】では「支え合い」9名，「看取り」5名，「かわり」8名，「コミュニケーション」5名，「行動に気づく」1名の5項目，【対象者】では「お年寄り」2名，「障害を持っている」1名，「ひいおじいちゃん・ひいおばあちゃん」2名，「おばあちゃん」1名，「認知症の人」1名，「利用者」1名の6項目，【介護者】では「家族」2名の1項目，【施設】では「老人ホーム」2名，「家」

1名の2項目、【専門性】では「楽しく過ごせるために考えている」1名、「成長していく」1名、「大事なしごと」1名、「体力のいる仕事」、「認めること」1名の5項目、【将来の仕事】では「介護の仕事をしてみたい」3名、「ちょっとだけ興味がわいた」3名、「介護体験とかボランティアをしたい」1名、「いろいろな人を助けたい」1名、「バイオリンの演奏で心のケア」1名、「介護のことがものすごくやりたい」1名、「将来の夢の候補」1名、「介護の仕事をやろうとは思わない」1名の8項目、【技術】では「授業で学んだこと（技術）を使いたい」2名、「家でも同じようなことができる」1名の2項目であった。

《イメージ》において【プラスイメージ】では「感動」8名、「魅力」4名、「やりがい」18名、「温かみ」4名、「感謝される」4名、「人の役に立つ」3名、「人とのふれあい」4名、「親切」3名、「うれしい」1名、「楽しい」6名、「すごい」1名、「明るい」1名の12項目、【マイナスイメージ】では「大変」15名、「きつい」3名、「忙しい」1名、「ストレス」6名、「きびしい」2名、「つらい」2名、「悲しい」5名の7項目であった。また、『大変だけどやりがいがある』や『ストレスが多いけどやりがいがあり人の役にたつ仕事だとわかった』や『大変な仕事だけど少し介護に興味を持った』、『ストレスやきびしくてつらいけど、やりがいや人とのふれあいがある』と前向きにとらえた記述をしていた。

(2) B中学校

《仕事》において【内容】では「関わり」4名、「看取り」7名、「手助け」1名、「支え合い」2名の4項目、【対象者】では「老人」1名、「ひいおじいちゃん・ひいおばあちゃん」7名、「祖父母」8名、「お年寄り」1名、「認知症」6名、「障害のある人」3名の6項目、【介護者】では「家族」2名の1項目、【施設】では「デイサービス」1名、「老人ホーム」3名、「昼間通っている施設」1名、「24時間365日みてる所」1名、「普通に普段の生活をしている」1名の5項目、【専門性】では「認知症をサポートしていく」1名、「生きやすい環境にする」1名、「ただ世話をしているだけでなく、いろいろなことを考えている」1名、「人の気持ちになって考える」2名、「命を最後まで見届ける」1名、「相手のこと

を思いやる」1名、「優しく寄り添う」1名の7項目、【将来の仕事】では「大規模より小規模で働きたい」1名、「いろいろな人と関わる仕事がしたい」1名、「福祉（介護）の仕事に興味を持った」1名、「介護を実際にしてみたい」1名、「もっと詳しく知りたい」1名、「興味を持ちました」1名、「自分もやりたい仕事があるので介護専門の仕事はしたいと思わない」1名の7項目、【技術】では「危なくならないように気をつける」1名、「習ったことを役立てたい」12名、「介護される側の人の立場になって考えたり行動する」1名、「物理が役立ってすごい」3名、「視覚が遮断されると何が何だかわからない」2名「おとしよりの目線で大変さつらさを感じる」1名、「横向きにするのがあんなに楽にできる」1名の7項目であった。

《イメージ》において【プラスイメージ】では「やりがい」10名、「笑顔にできる」3名、「感謝される」6名、「楽しそう」3名、「すごい」5名、「温かみ」1名、「仲良くなる」1名、「心が通じ合う」1名、「親切」1名、「責任がある」4名、「人々とのふれあい」1名、「頼もしい」1名、「思いやり」1名、「素晴らしい」1名、「かっこいい」1名、「優しい」1名、「勇気がある」1名の17項目、【マイナスイメージ】では「つらい」2名、「大変」13名、「きつい」5名、「辞めたくなる」1名、「悲しい」5名、「忙しい」1名、「厳しい」1名、「しんどい」2名、「ストレス」1名の9項目であった。

IV. 考察

1. 介護の仕事のイメージについて

小中学生とも実施前後の比較において『プラスイメージ』がすべての項目において増加したこと、中学生の『マイナスイメージ』がすべての項目において減少したことは、映画のストーリー性や映画全体の持つ柔らかい雰囲気が印象に残ったこと、登場人物の性格などが影響していると推測する。また、小学生において『マイナスイメージ』の「ストレスが多い」は10.3%増加したが、自由記述には肯定的な記述が多かったことより、『マイナスイメージ』の変化は映画の内容から感じたことが影響していると考えられる。

小中学生の実施前後の比較において『仕事の内容』が増加した項目は、「看取り」「地域とのかかわり」「健康にする」「支え合い」であり、小学生においては、「家事と同じ」「生活のお世話」も増加した。このことは映画のストーリー性や看取りのシーンを見たこと、小規模多機能型事業所の持つ特性などが影響していると推測する。

小中学生とも減少した項目は「女性の仕事」であった。このことは、主人公である介護福祉士の性別が男性であったこと、また、介護の仕事が男性の仕事として受け入れられたからだといえる。

これらのことから、映画「ケアニン」の上映は小中学生にとって介護への意識変容を図るための視聴覚教材として有効であると考えられる。

小中学生とも実施前に「きつい」、「給料が少ない」の項目を選択していることは、2015年、株式会社リクルートキャリアが就転職先としての介護サービス業の職業イメージについて行った調査においてネガティブイメージとして一番多かったのが「体力的にきつい」で61.0%、次に「精神的にきつい」で53.8%、3番目に「給与水準が低い」で48.0%⁴⁾という結果等から一般社会における報道等の影響を受けていることが考えられる。

2. 介護の仕事について

①介護の仕事を知っていると思うか、②介護の仕事についてもっと知りたいと思うかについて、小学生は実施後9割以上が「とてもそう思う」「思う」と答えており、中学生は約7割が介護の仕事を知っていると答えており、さらに約8割が介護の仕事をもっと知りたいと答えていることから、介護に関する関心や理解度が高まったといえる。

③介護の仕事をしてみたいと思うかについては、小学生は約6割、中学生は5割と他の質問に比べて低い値ではあるが、「全くそう思わない」と答えた者の割合が両者とも映画の視聴を通して約2割減少したことは、介護の仕事に対する関心や魅力を感じた者が増加したことを示している。

3. 「介護に関するの授業」の感想について

小学生は、「大変」など【マイナスイメージ】の表現は、映画「ケアニン」という視聴覚教材を活用

することによって、介護の仕事をリアルに捉えた結果であると同時に、そこから、「やりがい」や「役に立つ」仕事であると感じており、介護の仕事への理解が深まり、さらに、介護職員からの生の言葉を聞くことにより、介護の仕事を実際してみたい等現実味も帯びたようである。

中学生は、映画「ケアニン」と介護の授業を体験したことにより、【マイナスイメージ】から【プラスイメージ】に変わったり、【マイナスイメージ】はあるものの、【プラスイメージ】が増えた。このことは、現実的に考えることができるようになったり、社会における介護の存在にも関心を示し、介護に対するイメージも変化したと考えられる。

また、介護体験を実施したことにより、介護の仕事の現実に触れることができ、身近に活用できることや共感的理解が深まったと考えられる。

今回の映画「ケアニン」の上映はまだまだ身近に出会えない介護の仕事について視聴覚を通して学習したことにより、介護の仕事に対する見方が変化し、介護の仕事をしてみたい、興味が出た等関心が高まり精神的にも成長したと思われる。これまで身近ではなかったことに出会い、感じて考えるという体験は成長の過程で重要であり、体験を意味ある思考の起点とするために提唱されているのがリフレクションである。(佐藤2016)^{5,30)}子どもたちの内面に生じた動揺は、意味ある思考である。葛藤や揺らぎを自覚することこそが、社会福祉問題に主体的に向き合うことに通じる。(佐藤、2016)^{5,30)}映画視聴で初めて出会い、感じたことをこれからの生活の中で高齢者のみならず困っている人等に出合った時に今の気持ちを持って接してほしい。子どもたちは、将来的に地域福祉の担い手となることが期待される存在であり、その素地は小学校における福祉教育に依る部分大きい。(佐藤、2016)^{6,31)}現在、社会一般における介護に対するネガティブイメージが浸透していることを、子どもの発達段階において刷新していく努力が必要になると思われる。また、小学生1名「介護の仕事をやろうとは思わない」、中学生1名「自分もやりたい仕事があるので介護専門の仕事はしたいと思わない」と述べており、介護の仕事の内容がより深く理解できたからこそ、自分の将来に向けて目指す職業への意識がはっきりしてきたので

はないだろうか。そのためには職業を意識する前段階から介護の仕事を正しく理解できる福祉教育の在り方を考えていく必要がある。

介護の仕事への関心や理解度の高まりと介護の仕事のイメージは、映画視聴を通して概ねプラスイメージと捉えられていることから、介護の仕事の魅力を児童生徒に伝えられたことから本事業の目的を達成できたと考えられる。

介護福祉士養成に携わっている者が、小中学校とお互いに連携を持ち、介護について児童生徒に対し知識や体験を単発的でなく発達段階に応じた教授方法を考え実践していく必要がある。

2025年には小学6年生は19歳、中学2年生は21歳となっており、今回の映画「ケアニン」の視聴覚教材を活用しての啓発活動が進路選択に大きな影響を与える一助となり、求められる介護人材となっていることを期待したい。

謝 辞

本研究にあたり、調査にご協力いただきましたA小学校の児童及び教諭の皆様、B中学校の生徒及び教諭の皆様に心から感謝申し上げます。

注

- 1) 資料1、資料2のあなたの介護の仕事のイメージについての語句「看取り」にふりがなをふり小中学生に語句の意味が理解しやすいように配慮した。

引用・参考文献

- 1) 2018年5月28日公表第7期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要性について
<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12004000-Shakaiengokyoku-Shakai-Fukushikibanka/0000207318.pdf> (最終閲覧日2019.1.4)
- 2) 児童生徒等に対する介護の魅力発信事業「介護に関する授業」
https://www.pref.kagawa.lg.jp/content/dir1/dir1_3/dir1_3_6/wavpfr181011095008.shtml (最

終閲覧日2019.1.4)

- 3) ケアニン～あなたでよかった～

<https://www.care-movie.com/> (最終閲覧日2019.1.4)

- 4) HELPMANJAPAN「介護サービス業職業イメージ調査2015」

<https://www.minnanokaigo.com/news/kaigogaku/no397/> (最終閲覧日2019.1.4)

- 5) 佐藤真澄, 2016, 小学校における福祉教育に関する一考察, 山口学芸大学教育学部研究紀要, 第7号, pp30

- 6) 同上), pp31

介護の魅力発信事業についてのアンケート

番号()

アンケート調査ご協力をお願い

この度、介護の仕事についての理解が深まることを目的に「ケアニン～あなたでよかった～」の映画鑑賞と介護の授業を行います。その効果や今後の課題を知るために、アンケート調査を行いますので、ご協力をお願いします。調査した内容は、報告ならびに香川短期大学の教育研究にのみ使用します。また、個人が特定されないようにデータで管理し、成績等には影響しないことを約束します。

香川短期大学 生活文化学科生活介護福祉専攻

次の問いについて、あてはまるところに○をつけてください。

1. あなたの介護の仕事のイメージについて、当てはまるものすべてに○を書いてください。

責任がある ・ 家事と同じ ・ 人とのふれあい ・ きたない ・ 楽しい ・ ストレスが多い
 感謝される ・ 休みが多い ・ きつい ・ 魅力がある ・ 感動がある ・ きびしい
 笑顔がみられる ・ 女性の仕事 ・ 助ける ・ 親切 ・ 人が足りない ・ ^{みとり}看取り
 やりがいがある ・ 生活のお世話 ・ 健康にする ・ 人の役にたつ ・ 温かみがある
 給料が少ない ・ かっこいい ・ 地域とのかかわり ・ 優しい ・ 支え合い
 その他 ()

2. 介護の仕事について

	とても 思う	思う	思わ ない	全く 思わ ない
①あなたは、介護の仕事について、知っていると思いますか。	4	3	2	1
②あなたは、介護の仕事について、もっと知りたいと思いますか。	4	3	2	1
③あなたは、介護の仕事をしてみたいと思いますか。	4	3	2	1

3. あなたの基本情報を教えてください。

①学年 小学校 () 年 ・ 中学校 () 年

②性別 男性 ・ 女性

③介護の経験 (あてはまるものすべてに○をつけてください)

ボランティア () 回 ・ 職場体験 ・ 学校の授業 ・ その他 ()

④一緒に住んでいる人

介護が必要な人がいる ・ 介護を職業にしている人がいる

ご協力ありがとうございました。

資料2

介護の魅力発信事業についてのアンケート

番号()

次の問いについて、あてはまるところに○をつけてください。

1. あなたの介護の仕事のイメージについて、当てはなるものすべてに○を書いてください。

責任がある ・ 家事と同じ ・ 人とのふれあい ・ きたない ・ 楽しい ・ ストレスが多い
感謝される ・ 休みが多い ・ きつい ・ 魅力がある ・ 感動がある ・ きびしい
笑顔がみられる ・ 女性の仕事 ・ 助ける ・ 親切 ・ 人が足りない ・ ^{みとり}看取り
やりがいがある ・ 生活のお世話 ・ 健康にする ・ 人の役にたつ ・ 温かみがある
給料が少ない ・ かっこいい ・ 地域とのかかわり ・ 優しい ・ 支え合い
その他 ()

2. 介護の仕事について

	とても 思う	思う	思 わ ない	全 く 思 わ ない
①あなたは、介護の仕事について、知っていると思いますか。	4	3	2	1
②あなたは、介護の仕事について、もっと知りたいと思いますか。	4	3	2	1
③あなたは、介護の仕事をしてみたいと思いますか。	4	3	2	1

3. 「ケアニン～あなたがいてよかった～」の映画や介護の授業の感想を自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。